

欧州統合の文脈から EU 環境政策を見る—多様性と one actor

(EU Environmental Policy in the context of European Integration) ¹

長崎大学環境科学部 和達容子

報告趣旨

EU 環境政策は、欧州統合の中から誕生し、欧州統合が直近に目指すものや当時の制度・組織の影響を受けながら発展してきた経緯がある。本報告は、この「欧州統合」というより大きな政治の流れとの関係性から EU 環境政策を概観し、今日の当該政策の特徴および注目点について取り上げるものである。

報告概要

1. EU 環境政策の特徴①: 多様性の確保と EU 環境政策のダイナミズム

EU 域内の多様性は、新しいアイデアや手法をボトム・アップさせる活力を温存させている。関係アクターが環境改善への意欲を持って新しい理念や手法の開発に取り組む限り、EU 中の多様性は分裂ではなく、EU の活力として利用される成功例となる。ここにおいて、EU 環境政策の芽の多くが加盟国の政策の中に潜んでいると言える。

- ・ 補完性原則による加盟国裁量権の温存
- ・ 加盟国が EU からのトップ・ダウンに甘んじることを良しとしない政治・文化的傾向
 - EU 制度をめぐる加盟国間の競争状態と活力…「制度適応コスト」を低めようとする動き
 - ex. 環境情報アクセス指令
 - IPPC 指令
 - EU-ETS 指令
 - 加盟国レベル以下の施策の相互学習
- ・ 市民 (NGO) の活力

2. EU 環境政策の特徴②: ”One actor”としての行動

1990 年のダブリン宣言を初めとして、EU は環境領域における国際的リーダーシップ獲得に強い意欲を示している。一方、域内政策では、第 6 次環境行動計画において「環境対策

¹ 本報告は、実験的な要素を多数含んでおり、確定されたものではありません。本報告およびレジュメ内容を引用することはご遠慮下さい。

が組み込まれた経済活動」「環境と経済の一体化」を強調していた。EU が対外行動を展開する際には、彼らの示す規範的役割だけでなく、提案に含意される利点、研究活動との関係性についても注視すべきである。

- ・ 国際レジーム形成・発展におけるイニシアティブ掌握への意欲
 - 規範的アクターとしての自覚
 - 「制度適応コスト」の削減意図
 - 「国際競争力」確保との一体化 cf. 「第2次持続可能な発展戦略」(2006年)
ex. EUスタンダードのグローバル・スタンダード化
- ・ EU・研究者間の密接な連携関係と政策化に関する指摘
- ・ 「拡大」は共通の対外的利益が持つ意味を大きくしているのではないか。

3. おわりに

<参考文献・資料>

1. Adrienne Héritier, Christoph Knill, Susanne Mingers, *Ringing the Changes in Europe- Regulatory Competition and Redefinition of the State. Britain, France, Germany*, Walter de Gruyter, 1996.
2. European Commission, “A Sustainable Europe for a Better World: A Europe Union Strategy for Sustainable Development”, COM(2001)264final, 15.5.2001
3. “Decision No 1600/2002/EC of the European Parliament and of the Council of 22 July 2002 laying down the Sixth Community Environment Action Programme”, OJ, L242, 10.9.2002.
4. Andrew Jordan (ed.), *Environmental Policy in the European Union- Actors, institutions and processes*, second edition, Earthscan, 2005.
5. Takako Ueta and Eric Remacle (eds.), *Japan and Enlarged Europe- Partners in Global Governance*, P.I.E.-Peter Lng, 2005.
6. European Council, “Presidency conclusions of the European Council on the renewed European Sustainable Development Strategy”, 10633/1/06; “European Council: A renewed European Sustainable Development Strategy”, 10117/06.
7. Tripartite task force, Brazil, European Union & United States of America, “White paper on internationally compatible biofuel standards”, December 31 2007.
8. European standards: an opportunity to improve environmental protection http://ec.europa.eu/environment/standardisation/com2004_130final_en.htm on 25/10/2009.
9. 庄司克宏編『EU法 実務篇』岩波書店、2008年。
10. 環境省編『平成21年版 環境白書 循環型社会白書／生物多様性白書～地球環境の健全な一部となる経済への転換～』、2009年。